

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成25年10月15日

【四半期会計期間】 第48期第2四半期(自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日)

【会社名】 エスフーズ株式会社

【英訳名】 S Foods Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 村上真之助

【本店の所在の場所】 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22番13

【電話番号】 (0798)43局1065番

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長
安岡信幸

【最寄りの連絡場所】 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22番13

【電話番号】 (0798)43局1065番

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長
安岡信幸

【縦覧に供する場所】 エスフーズ株式会社東京支店
(千葉県船橋市浜町3丁目2番3)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第2四半期 連結累計期間	第48期 第2四半期 連結累計期間	第47期
会計期間	自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日	自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日	自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日
売上高 (百万円)	72,120	81,438	148,097
経常利益 (百万円)	2,747	2,775	5,593
四半期(当期)純利益 (百万円)	1,284	1,466	2,507
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,470	1,559	4,146
純資産額 (百万円)	38,293	41,561	40,631
総資産額 (百万円)	70,444	78,877	72,224
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	45.88	52.36	89.53
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	48.7	47.4	50.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	128	2,153	3,713
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,289	2,421	2,348
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	900	2,383	439
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	14,526	14,701	16,839

回次	第47期 第2四半期 連結会計期間	第48期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年6月1日 至 平成24年8月31日	自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	21.18	27.79

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 2 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、6、7月度の消費者物価指数が前年比プラスに転じたこと、失業率が3%台まで改善したことなど、緩やかに好転しているように見られます。

しかしながら、当食肉業界においては、原材料費の高騰や円安の進行などのコストアップ要因により利益率の低下を招き、厳しい経営環境にさらされました。

このような経営環境のもと、当社グループは、低成長の経済環境に適合した営業体制の構築と食肉の生産から小売・外食までの一貫流通の推進により、経営体質の強化と安定的な成長を目指しました。

食肉等の製造・卸売事業においては、引き続き生産事業の拡充に取り組んでおり、豚については生産事業・設備の規模拡大に着手しております。牛については平成24年1月に初めて神戸牛を海外に輸出し、本年5月にはタイ、6月にはシンガポールへの輸出を開始したことで、輸出国（地域）は5カ所となりました。また、7、8月には3年半振りにテレビCMを投入し、こてっちゃんの拡販キャンペーンを後押ししました。

食肉等の小売事業においては、新規ディベロッパーとの取り組みによる出店や既存店活性化活動の継続、提案型販売の強化等を進めました。

食肉等の外食事業においては、ステーキレストランチェーンの競争力向上のための施策を実施し、新規顧客開拓及び既存顧客との深耕取引等に取り組みました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高814億3千8百万円（前年同四半期比12.9%増）、営業利益25億1千5百万円（前年同四半期比2.1%減）、経常利益27億7千5百万円（前年同四半期比1.0%増）、四半期純利益14億6千6百万円（前年同四半期比14.1%増）となりました。

続いて、セグメントごとの業績は次のとおりであります。なお、売上高は外部顧客への売上高を記載し、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

食肉等の製造・卸売事業

売上高は669億6千3百万円（前年同四半期比16.4%増）、セグメント利益は23億5千3百万円（前年同四半期比4.4%減）となりました。

食肉等の小売事業

売上高は98億5千7百万円（前年同四半期比2.8%減）、セグメント利益は3億8千5百万円（前年同四半期比16.4%減）となりました。

食肉等の外食事業

売上高は37億8千9百万円（前年同四半期比5.6%増）、セグメント利益は2億5千5百万円（前年同四半期比77.7%増）となりました。

その他

売上高は8億2千8百万円（前年同四半期比4.9%減）、セグメント利益は4千2百万円（前年同四半期比92.0%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて66億5千3百万円増加し、788億7千7百万円となりました。これは主に、売上高増加に伴う売上債権の増加及びたな卸資産の増加によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて57億2千3百万円増加し、373億1千6百万円となりました。これは主に、売上高増加に伴う仕入債務が増加したこと及び借入金が増加したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて9億2千9百万円増加し、415億6千1百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて21億3千7百万円が減少し、147億1百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、21億5千3百万円の支出(前年同四半期は1億2千8百万円の支出)で、主な減少要因は売上債権の増加60億1千3百万円、たな卸資産の増加16億7千9百万円及び法人税等の支払額14億7千9百万円であります。一方、主な増加要因は税金等調整前四半期純利益27億7千1百万円、減価償却費8億5百万円及び仕入債務の増加30億2千万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、24億2千1百万円の支出(前年同四半期は12億8千9百万円の支出)で、支出の主なものは有形固定資産の取得による支出24億9千7百万円及び投資有価証券の取得による支出15億9千8百万円であります。一方、収入の主なものは投資有価証券の売却による収入16億8千9百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、23億8千3百万円の収入(前年同四半期は9億円の収入)で、収入の主なものは短期借入金の純増額10億8千万円及び長期借入れによる収入28億4千万円であります。一方、支出の主なものは長期借入金の返済による支出9億円及び配当金の支払額3億3千5百万円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の当社グループが支出した研究開発費の総額は4千4百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年10月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	32,267,721	32,267,721	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 500株
計	32,267,721	32,267,721	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年8月31日	-	32,267,721	-	4,298	-	11,881

(6) 【大株主の状況】

平成25年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
村上 真之助	兵庫県姫路市	7,990	24.76
丸紅株式会社	東京都千代田区大手町1丁目4-2	4,841	15.00
有限会社ファイブエム	兵庫県西宮市羽衣町5番17-201号	1,122	3.47
伊藤ハム株式会社	神戸市灘区備後町3丁目2-1	838	2.59
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口4G)	東京都中央区晴海1丁目8-11	738	2.28
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町1丁目2番1号	705	2.18
包括信託受託者 日本トラスティ・サービス信託 銀行(中央三井アセット信託銀 行再信託分・株式会社三井住友 銀行退職給付口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	610	1.89
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	322	1.00
野村信託銀行株式会社(投信 口)	東京都千代田区大手町2丁目2-2	316	0.97
エスフーズ従業員持株会	兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22番13	298	0.92
計		17,785	55.11

- (注) 1 上記のほか、当社が保有している自己株式が4,263千株(13.21%)あります。
 2 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式699千株は、信託業務に係る株式であり
 ます。
 3 包括信託受託者日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式610千株(持分比率
 1.89%)は、株式会社三井住友銀行が同行に委託した信託財産であり、その議決権行使の指図権
 は、株式会社三井住友銀行に留保されております。
 4 次の法人から、平成21年3月5日に大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付があり(報告
 義務発生日平成21年2月27日)、次のとおり株式を保有している旨報告を受けておりますが、当
 第2四半期会計期間末現在における当該法人名義の実質所有株式数の確認ができませんので、上
 記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
スパークス・アセット・ マネジメント株式会社	東京都品川区大崎1丁目11-2	1,318	4.08

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,263,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,847,500	55,695	-
単元未満株式	普通株式 157,221	-	-
発行済株式総数	32,267,721	-	-
総株主の議決権	-	55,695	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が220株含まれております。

【自己株式等】

平成25年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) エスフーズ株式会社	兵庫県西宮市鳴尾浜 1丁目22番13	4,263,000	-	4,263,000	13.21
計		4,263,000	-	4,263,000	13.21

2 【役員】の状況

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年6月1日から平成25年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,889	15,747
受取手形及び売掛金	13,727	² 19,820
商品及び製品	6,369	7,354
仕掛品	2,609	3,019
原材料及び貯蔵品	909	1,221
その他	1,611	1,582
貸倒引当金	127	176
流動資産合計	42,991	48,568
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,467	19,880
減価償却累計額	11,612	11,871
建物及び構築物(純額)	6,854	8,009
土地	9,172	9,895
その他	13,747	13,778
減価償却累計額	9,826	9,983
その他(純額)	3,920	3,795
減損損失累計額	611	670
有形固定資産合計	19,336	21,029
無形固定資産		
のれん	42	36
その他	217	203
無形固定資産合計	259	240
投資その他の資産		
投資有価証券	6,362	5,872
その他	3,512	3,445
貸倒引当金	238	279
投資その他の資産合計	9,636	9,038
固定資産合計	29,232	30,308
資産合計	72,224	78,877

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,552	12,587
短期借入金	4,007	5,097
未払法人税等	1,416	1,072
賞与引当金	609	609
その他	4,398	5,264
流動負債合計	19,984	24,630
固定負債		
社債	270	100
長期借入金	7,999	9,540
退職給付引当金	782	768
役員退職慰労引当金	159	141
その他	2,396	2,135
固定負債合計	11,607	12,685
負債合計	31,592	37,316
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,298	4,298
資本剰余金	11,952	11,952
利益剰余金	21,956	23,086
自己株式	2,987	2,988
株主資本合計	35,220	36,349
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,324	1,016
繰延ヘッジ損益	38	46
為替換算調整勘定	258	2
その他の包括利益累計額合計	1,104	1,065
少数株主持分	4,307	4,146
純資産合計	40,631	41,561
負債純資産合計	72,224	78,877

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
売上高	72,120	81,438
売上原価	59,657	68,828
売上総利益	12,463	12,610
販売費及び一般管理費	¹ 9,892	¹ 10,095
営業利益	2,570	2,515
営業外収益		
受取利息	12	12
受取家賃	62	82
受取配当金	51	70
負ののれん償却額	28	28
その他	151	232
営業外収益合計	306	425
営業外費用		
支払利息	68	72
貸倒引当金繰入額	-	41
賃貸原価	29	35
その他	30	16
営業外費用合計	129	165
経常利益	2,747	2,775
特別利益		
投資有価証券売却益	10	-
負ののれん発生益	-	112
受取補償金	20	47
その他	11	5
特別利益合計	42	165
特別損失		
固定資産処分損	32	7
減損損失	19	120
店舗閉鎖損失	13	26
その他	0	15
特別損失合計	65	169
税金等調整前四半期純利益	2,724	2,771
法人税等	1,300	1,180
少数株主損益調整前四半期純利益	1,423	1,591
少数株主利益	138	125
四半期純利益	1,284	1,466

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,423	1,591
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	307
繰延ヘッジ損益	3	7
為替換算調整勘定	40	266
持分法適用会社に対する持分相当額	0	1
その他の包括利益合計	46	31
四半期包括利益	1,470	1,559
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,327	1,427
少数株主に係る四半期包括利益	143	132

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,724	2,771
減価償却費	792	805
減損損失	19	120
のれん償却額	101	5
負ののれん償却額	28	28
負ののれん発生益	-	112
賞与引当金の増減額(は減少)	6	0
退職給付引当金の増減額(は減少)	5	13
受取利息及び受取配当金	63	82
売上債権の増減額(は増加)	3,848	6,013
たな卸資産の増減額(は増加)	1,830	1,679
仕入債務の増減額(は減少)	2,712	3,020
その他	701	527
小計	1,293	678
利息及び配当金の受取額	59	86
利息の支払額	69	81
法人税等の支払額	1,411	1,479
営業活動によるキャッシュ・フロー	128	2,153
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(は増加)	656	12
有形固定資産の取得による支出	829	2,497
無形固定資産の取得による支出	3	4
投資有価証券の取得による支出	503	1,598
投資有価証券の売却による収入	746	1,689
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	58	-
子会社株式の取得による支出	-	115
貸付けによる支出	117	127
その他	132	221
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,289	2,421
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	384	1,080
長期借入れによる収入	3,050	2,840
長期借入金の返済による支出	1,903	900
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	335	335
少数株主への配当金の支払額	64	64
その他	229	236
財務活動によるキャッシュ・フロー	900	2,383
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	52
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	506	2,137
現金及び現金同等物の期首残高	15,032	16,839
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 14,526	¹ 14,701

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日至平成25年8月31日)
税金費用の計算	当社及び一部の連結子会社については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結子会社 株式会社北海道中央牧場は、肥育業務委託先である下記3社(者)の金融機関からの借入に対し債務保証(連帯保証)を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
株式会社カーサ	290百万円	株式会社カーサ 280百万円
有限会社すぎもとファーム	93百万円	有限会社すぎもとファーム 89百万円
金丸 一男	210百万円	金丸 一男 210百万円
計	593百万円	計 579百万円

2 第2四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
受取手形	- 百万円	17百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日至平成25年8月31日)
給料及び手当	2,412百万円	2,439百万円
賞与引当金繰入額	396百万円	382百万円
貸倒引当金繰入額	33百万円	56百万円
役員退職慰労引当金繰入額	11百万円	11百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日至平成25年8月31日)
現金及び預金	15,696百万円	15,747百万円
有価証券(流動資産の「その他」)	7百万円	- 百万円
預入期間が3か月超の定期預金	1,177百万円	1,046百万円
現金及び現金同等物	14,526百万円	14,701百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年8月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月22日 定時株主総会	普通株式	336	12	平成24年2月29日	平成24年5月23日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月11日 取締役会	普通株式	336	12	平成24年8月31日	平成24年10月31日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年8月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月23日 定時株主総会	普通株式	336	12	平成25年2月28日	平成25年5月24日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月11日 取締役会	普通株式	364	13	平成25年8月31日	平成25年10月31日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	食肉等の製 造・卸売事業	食肉等の小 売事業	食肉等の外 食事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	57,518	10,142	3,589	71,250	870	72,120	-	72,120
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,065	14	54	3,134	24	3,158	3,158	-
計	60,583	10,157	3,643	74,384	894	75,279	3,158	72,120
セグメント利益	2,462	460	144	3,067	21	3,089	519	2,570

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲料水製造・販売事業及び不動産事業等であります。
2. セグメント利益の調整額 519百万円には、セグメント間取引消去 46百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 472百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社及び一部子会社の間接部門の一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	食肉等の製 造・卸売事業	食肉等の小 売事業	食肉等の外 食事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	66,963	9,857	3,789	80,610	828	81,438	-	81,438
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,210	30	78	3,319	67	3,386	3,386	-
計	70,173	9,888	3,868	83,929	895	84,825	3,386	81,438
セグメント利益	2,353	385	255	2,994	42	3,036	520	2,515

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲料水製造・販売事業及び不動産事業等であります。
2. セグメント利益の調整額 520百万円には、セグメント間取引消去 12百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 508百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社及び一部子会社の間接部門の一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「食肉等の小売事業」及び「その他」において、回収可能価額が帳簿価額を下回ったことにより減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において「食肉等の小売事業」8百万円、「その他」112百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

「食肉等の製造・卸売事業」において、連結子会社株式の追加取得により112百万円の負ののれん発生益を計上しております。

(企業結合等関係)

重要な該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	45.88円	52.36円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,284	1,466
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,284	1,466
普通株式の期中平均株式数(株)	28,007,217	28,005,066

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第48期（平成25年3月1日から平成26年2月28日まで）中間配当については、平成25年10月11日開催の取締役会において、平成25年8月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	364百万円
1株当たりの金額	13円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年10月31日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年10月11日

エスフーズ株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松 井 隆 雄 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 林 礼 治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエスフーズ株式会社の平成25年3月1日から平成26年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年6月1日から平成25年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エスフーズ株式会社及び連結子会社の平成25年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。